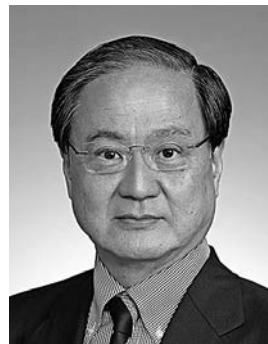


## 新年の挨拶

# 新年のご挨拶

金井 道夫



明けましておめでとうございます。

今年も、建設機械・施工の分野の発展、またその中で日本建設機械施工協会の業務の発展に、引き続き御支援、ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

世の中、本当にデジタル化に向かっているなど感じる事が多くなりました。我が国やアメリカの国政・地方選挙も SNS が当選するかどうかに大きな位置づけを占めるまでに至りました。一日の生活の中で、現金を使うことは珍しくなりました。また、趣旨が少しずれますが、当初は 1 万 BTC でピザが 2 枚買えたと言われるビットコインが、今や 1 BTC (1 万 BTC ではない) が 9 万ドル以上の価値を持つようになりました (上げ下げがひどすぎて、通貨にはなりにくいとは思いますが)。これらのデジタル化の流れは、好き嫌いとは別として今後も続くと思われます。

建設機械の分野でも、従来から、i-Construction, GX, SDGs などに関連して多くの取り組みが試みられています。この中で、能登半島地震の経験などを踏まえて、今後特に重要と思っていることがいくつかあります。

ひとつは、能登半島地震のような大きな災害時に、建設機械の初期稼働を可能とするために、全国の建設機械の配置をリアルタイムで明らかにすることです (もちろん、災害時限定です)。企業秘密などいくつかの課題がありますが、災害という緊急を要する事態ですし、「防災庁」の設置も本格的に検討される中、建設機械の配置に関するデータを災害時に本格的に使えるようにすることは、大きな前進だと思います。

私も、昔、「災害対策の基本は、まず現場で建設機械を早く動かすこと」という教育をずいぶん受けまし

たが、このためにも、是非実現したいと思います。

もうひとつは、いろいろな分野で活用されるようになったメタバースなどのデジタル技術を活用した、現場の効率化に合わせた、教育、広報です。建設機械は、やはり一般の人になじみがなく、実際に見ることが少ないのが課題で、現場見学、展覧会、講習会などで会員の皆様のご協力をいただいておりますが、一般の方の理解がなかなか進みにくいと感じています。メタバースなどの活用で、広く多くの方が仮想空間上で建設機械の体験ができれば、もっと建設機械の人気が出るのではないかと思います (テレビでの大型建設現場の紹介など結構評判がいいようなので、仮想空間上でも興味を持っていただけるのは重要と思います)。その上で、さらに上級コースとして、実際の現場見学などにつなげることができればと思います。

カーボンニュートラル対応についても、いろいろな場面で、あなたの組織はカーボンニュートラルの課題についてどれくらい貢献していますかと聞かれることが多くなりました。マクロかミクロかの話もありますし、国際的には背景となる発電、電力料金などの課題も大きいと思われますが、義務として対応しますという以上に建設業のイメージアップ戦略としてのニーズも感じられます。昨年の補正予算でも GX 建設機械の補助金の大幅増も認められたとのこと。今後とも注目すべき分野になると思います。

今年も、会員各位のご意見を元に、建設機械・施工のハード・ソフトにわたったビジョンを検討していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

——かない みちお 一般社団法人 日本建設機械施工協会 会長——